

あいさつの持つ力

玉川小学校 六年一組

私の通う玉川小学校は全校で二百四十人ほどの決して大きな小学校ではありません。

しかし、この小学校の中はもちろん、この町の中はあいさつであふれています。

通学路には、朝早くから私達の安全を見守ってくれるお父さん・お母さん・駐在のおまわりさん・学校の先生、そして地域のみなさんがいて、必ず

「おはよう。気をつけていってらっしゃい。」と声をかけてくれます。

私達は、個々にきちんとあいさつを返します。本当は自分から先に、あいさつをしたい時もあります。大人の方は目を見て、顔色まで見て、寝不足だったりすると、すぐ見破って声をかけてくれます。

「体調悪いの？大丈夫？」

低学年の頃は、はるかしさもあって、返事をできなかつた時もありましたが、今は登下

校の時や、遊ぶに行、た時などに声をかけて
あいさつしてくれる人達が、とてもたのもし
くて、安心感を与えてくれます。

両親が仕事などで、休みの日に一日中家に
いる時などは、ほとんど会話をしないことも
ありますが、一歩町に出れば、近所のおぼち
やんや、友達のお父さん、お母さんが

「どこに行くの？おそくならない様に気をつ
けてね」

などと優しく声をかけてくれ、

「いってきます。」

と私もこたえます。

いつもどこかで、だれかが見守ってくれて
いる、この町にはそんな安心感があふれてい
て、犯罪も少ないと聞きました。

登下校時はもちろん、何か困ったことがあ
ったときには「一〇番の家」というものが
私の通学路へ片道三キロメートルの中に九
軒以上もあります。商店をはじめ、一般の家
で常に人がいらっしやる家などが対象となっ

ています。

昨年の夏のことです。妹が暑い夏の日、下校していた時に、のどがかわいて真っ赤な顔をしていたらしく、それを見た一一〇番の家で冷たい氷の入った麦茶を飲ませてくれたそうです。

「いつでも寄っていいからね。」

そんな温かい町で私は生活しています。

あいさつとは一言です。

でも、その一言で私達人間は、人間とコミ

ニケーションをとれる唯一の動物だと聞いたことがあります。

人は一人では生きていきません。日々の生活の中でも、人と人がふれ合い、あいさつをかわしながら、生活を豊かにしていくのだと思います。

私の通う、玉川小学校は、お客様が来校された時に、

「よくあいさつできる生徒が多くて気持ちが良いですね。」

とほめられます。

あいさつを、やらされるのではなく、自分から心をこめて自然に口が出るようになりたいと思います。

地域のみなさんが、私達にくれる笑顔のあいさつを、これからも大切にしていきたいです。

どこかでだれかが、必ず見守ってくれているという安心感こそが、犯罪や非行のない明るい社会を育てるのだと確信しています。

犯罪を犯す人達は、きっと、あいさつという人とのふれあいが少ないかなかと、たのだと思えます。

「ふれあう、てあたたかい」

そんな当たり前の、人への感謝の心や、あいさつの力を信じて、これからの生活に生かしていきたいと思えます。

もちろん、自分から積極的に声を出して、心をこめて言えるようになりたいです。

一番好きな言葉「ありがとう」を。